

恩納村等での赤土問題への取り組み

(巻頭) 石垣県漁業中央会 赤土問題対策委員会 会長 玉那覇 靖

恩納村、本部町、今帰仁町の漁業者から最も取り組んでほしい課題の一つとして「赤土の流出防止」があげられた。

1. 概要

担当地区内の恩納村、本部町や今帰仁等の漁業者から最も取り組んでほしい課題の一つとして「赤土の流出防止」があげられた。

したがって、今年度は漁業公害調査指導事業担当者、沖縄県漁協青壮年部連絡協議会及び(社)沖縄県水産業中央会とも連携を取りながら、シンポジウムの開催、署名運動、ステッカーの作成等を行い県民世論を盛り上げた。

2. 取り組み事例

(1) 漁場保全ステッカーの作成

ア. 目的：いま地球環境の保全が全人類の課題となっている。本県の場合も、陸域からの土砂、生活廃水や畜舎廃水による海や河川の汚染、ゴミ問題等が大きな社会問題となっている。これまでは、環境保全よりはむしろ経済発展を優先させ、自然と調和して行う水産業や農業の衰退がみられる。また、県民への「環境教育の不足」、環境保全に対する「意識の低さ」や「無関心さ」が問題をさらに悪化させる場合が多々あった。

したがって、環境教育の強化により子供たち等の地域社会への関心を高め、何が問題なのか、自分たちに何が出来るのか、子供は子供なりに真剣に考え行動してもらう「きっかけ」として、「海が好き」をコンセプトにステッカーを5,000部印刷した。

イ. 対象：小学生以上の県民。

ウ. 配布方法：ある地域を選定し、他の副読本等も利用しながら重点的に配布を行い、モデル地域を形成し他地域への波及も図った。また、ステッカー希望者には、返信用切手を同封させ先着順に無償で提供した。

(2) 漁場保全ステッカーの配付

ア. 経過 —5,000枚を完全配布—

水産業改良普及所では、漁場環境の保全を図っていくという観点から、「海が好き」のステッカーを12月12日に配布を開始した所、反響が大きく漁業者、ダイバー、釣愛好家、主婦や学生等から問い合わせが殺到した。

特に、児童館、保育園や各種サークルのクリスマスプレゼント用としての希望者も多かった。

イ. モデル地区の選定 —恩納村を選定—

同ステッカーの効果をより強く引き出すために、モデル地区を選定して集中的に取り組むことにした。なお、選定の基準にあたっては、①漁業者、漁協や役所等が環境保全に対して意識の高いこと。②具体的な活動事例の多い地域。③赤土流出防止活動等である程度成果がでてい

る地域。以上3点を勘案して恩納村をモデル地区とした。

ウ. 具体的な取り組み 一 村内全小中学生や漁協組合員に配布一

恩納村内にある5つの小中学校の生徒、安富祖176名、恩納403名、喜瀬武原62名、仲泊272名、山田275名の計1,188名に対して職員も含め1,350枚のステッカーや赤土流出防止を訴えた冊子を配布しました。

また、恩納村漁協の組合員392名に対して500枚のステッカーを配布し、継続して、組合員と共に村民等に対してステッカーや赤土流出防止を訴えた冊子を配布した。

(3) 今後の取り組み 一 絵本等の作成と普及一

地域の漁業者や住民は、赤土問題を分かり易く書いた絵本、パンフレット等の副読本を作成して欲しいという要望が強かった。

また、開発業者や農業者等に関しては、「赤土の流出防止」(平成3年)のような土壤保全のマニュアルを今までどうりに充実させて欲しいという要望が強かった。

したがって、今度は、絵の多いパンフレットの作成や土壤保全のマニュアルを今までどうり充実させる必要があると思われた。

(4) 他団体の取り組みへの協力

平成3年6月には「ゆたかな海づくりシンポジウム—どうする赤土汚染!」が開催され大盛況であった。なお、詳細については(社)沖縄県水産業中央会「ゆたかな海づくりシンポジウム—どうする赤土汚染!報告書」(平成3年)を参照されたい。

さらに、平成3年12月には「赤土流出防止条例」の制定を求める署名運動も各漁協青年部等を中心に活発に行われた。

琉球新報 (朝・夕)	沖縄タイムス (朝・夕)	朝日 (朝・夕)	日経 (朝・夕)	水経 (朝・夕)
その他	漁政 (公言)	構想計画	漁業調整	団体金融
事故・災害	水産生物	農林	商工	その他
				「海が好き」スリッカー-Ref.
			流通加工	漁船・漁港
			試験研究	改良普及

漁場の環境保全を訴え 各地から人気呼び好評

「海が好き」の魅力を、昨年末に開催された「環境保全を訴え」のイベントで、各地から多くの人が集まり、大いに盛り上がりました。このイベントは、環境保全の重要性を訴えるとともに、漁場の環境保全の重要性を訴えるための活動です。

会場には、環境保全の重要性を訴えるためのポスターや、環境保全の重要性を訴えるためのパンフレットが展示されました。また、環境保全の重要性を訴えるためのクイズや、環境保全の重要性を訴えるためのゲームも行われました。

このイベントは、環境保全の重要性を訴えるための重要な活動であり、各地から多くの人が参加し、大いに盛り上がりました。今後も、環境保全の重要性を訴えるための活動を続けていく予定です。



「海が好き」

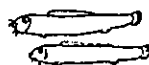
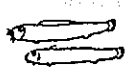
Love Seal
Make Clean, Stop the Fish
漁場の環境保全を訴え

「海が好き」スリッカー-Ref.

「海が好き」の魅力を、昨年末に開催された「環境保全を訴え」のイベントで、各地から多くの人が集まり、大いに盛り上がりました。このイベントは、環境保全の重要性を訴えるとともに、漁場の環境保全の重要性を訴えるための活動です。

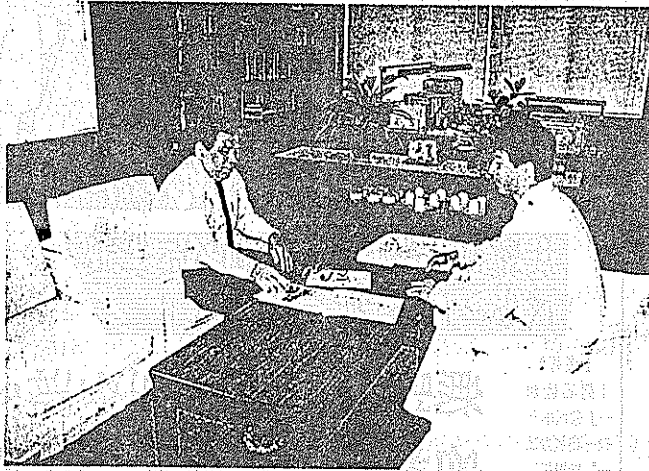
会場には、環境保全の重要性を訴えるためのポスターや、環境保全の重要性を訴えるためのパンフレットが展示されました。また、環境保全の重要性を訴えるためのクイズや、環境保全の重要性を訴えるためのゲームも行われました。

このイベントは、環境保全の重要性を訴えるための重要な活動であり、各地から多くの人が参加し、大いに盛り上がりました。今後も、環境保全の重要性を訴えるための活動を続けていく予定です。



I Love Sea!

地球環境 一緒に 考えてみませんか



ステッカー・副読本等を校長先生に贈呈する
漁協職員（喜瀬武原校）

地球環境の保全が全人類の課題となっている今、わが沖縄県においても陸域からの土砂、生活廃水や畜舎廃水による海や河川の汚染ゴミ問題等が大きな社会問題となっています。

沖縄県水産改良普及所では、恩納村をモデル地区に選定し、環境教育の強化により子供たちの地域社会への関心を高め、何が問題なのか、自分たちに何ができるのか、子供は子供なりに真剣に考え行動してもらうことを目的に「海が好き」をコンセプトにステッカーを五百枚配布しました。



村内各小中学校に配布された
ステッカー